

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理歴史科	科目	地理総合		単位
対象コース	一貫、進学、総合、美術	コース	対象クラス	1 年	1 ～ 9 組
使用教科書	新地理総合（帝国書院）新詳高等地図（帝国書院）				
使用副教材	新地理総合ノート				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

私たちの生活圏には、多岐にわたる地理的な課題がみられる。生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域ように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのだろうか。

- (1) 地図、地理情報、地域調査の学習を通して、地図の活用法、地域や世界の諸事象を理解する力や課題の発見力を身に付け
- (2) 地形や気候の学習を通して、自然と人間の関わりを理解し、各地域の人間生活の基盤を形成しているものへの理解を深め
- (3) 日本の自然や環境問題の学習を通して、自然災害を理解するとともに防災意識を高め、環境問題に対する関心を高めて下
- (4) 世界や日本の農林水産業の学習を通して、自然と農林水産業の関わりを理解するだけではなく、食糧問題にも関心を深め

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- (1) 地理情報の活用方法、世界観の変化、地球上の位置、時差、世界図の図法・種類、一般図と主題図、地域調査について学
- (2) 地形の種類・成因・分布、陸水と海洋、大気大循環、雨温図とハイサーグラフ、世界の気候区分・植生・土壌について学
- (3) 日本の地形・気候、自然災害と防災、オゾン層の破壊・地球温暖化・森林破壊・砂漠化・酸性雨等の環境問題について学
- (4) 世界の農業地域区分、自給的農業・商業的農業・企業的農業の種類、世界の林業・水産業、日本の農林水産業について学

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- (1) 地理情報の活用方法、世界観の変化、地球上の位置、時差、世界図の図法・種類、一般図と主題図、地域調査について学
- (2) 地形の種類・成因・分布、陸水と海洋、大気大循環、雨温図とハイサーグラフ、世界の気候区分・植生・土壌について学
- (3) 日本の地形・気候、自然災害と防災、オゾン層の破壊・地球温暖化・森林破壊・砂漠化・酸性雨等の環境問題について学
- (4) 世界の農業地域区分、自給的農業・商業的農業・企業的農業の種類、世界の林業・水産業、日本の農林水産業について学

(2) 家庭

- ① 復習は必要です。授業で理解できなかった用語や内容はその日のうちに教科書などで確認しておきましょう。
- ② 新聞やテレビのニュースを必ず見ましょう。問題を解く際に力強い味方になります。常識で解ける問題もあるのです。
- ③ 模試の見直しの際、模範解答の解説書を熟読し、「正解の根拠・地図や統計読解のテクニック」を理解し覚えましょう。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 定期考査→年5回の定期考査は、授業の学習内容から出題します。
- (2) 夏休み・冬休みの課題→予習・復習用の課題です。休み明けに、課題内容の確認テストを行います。
- (3) 授業に参加する事を第一に考え、発問により多くの思考を

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

授業における発言、課題や作業への取り組みが積極的であり、地理への関心を深め授業内容を進んで理解しようとしているのかに、課題や作業の提出状況と内容を見ます。また、協働学習に対する取り組む姿勢を見ます。

(2) 思考・判断

授業の各分野において、単に用語を暗記するだけではなく、地図や統計資料を用いての発展的な課題に対し、解答を見つけるこ

す。また、協働学習において、意見交換を通して自分の意見を進化させているかを見ます。

(3) 技能・表現

新聞やテレビで得た情報を、地理の学習内容に結びつけることができるか。また、授業の内容理解にどのような資料を用い、どのような技能を見ます。また、協働学習における意見の伝え方（表現力）も見ます。

(4) 知識・理解

授業で学んだ自然環境・産業・資源について、基本的な用語や説明内容を正しく理解し、「ある地域の特色や地域間の共通性な地理的な見方や考え方が身についているか見ます。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか			重視する点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思
1	4	はじめに 第1部 さまざまな地図と地理的技能 第1章 地理情報と地図 第1節 地図の発達 1. 現代の地図 2. 世界観の変化と地図 第2節 地図の種類とその利用 1. 地球上の位置 2. 時差の求め方 技能1 時差の計算 3. 地球儀とさまざまな地図 第3節 地理情報の地図化 1. 地理情報とは何か 2. 一般図と主題図 3. いろいろな統計地図 技能2 統計地図の読み方と作り方 第2章 地図の活用と地域調査 第1節 地図の活用 1. 地形図の利用 2. 地形図のデジタル化 技能3 空中写真の利用 技能4 地形図の利用—地図記号	○ 地理学を学ぶ意味・地理学の構成等を学びます。 ○ リモートセンシング・GNSS・GIS等を学びます。 ○ プトレマイオスの世界地図・TOMマップ等を学びます。 ○ 経度・緯度・本初子午線・地球の大きさ等を学びます。 ○ GMT・日付変更線・標準時・サマータイム等を学びます ○ 時差の計算を行います。 ○ 正角図法（メルカトル図法・等角航路等）等を学びます。 ○ 正方位図法（正距方位図法・大圏航路等）等を学びます。 ○ 正積図法（サンソン図法・メルワイデ図法等）等を学びます。 ○ 地理情報とは何かを学びます。 ○ 地理情報・一般図・主題図・地形図・統計地図等を学びます。 ○ 絶対分布図（ドットマップ・図形表現図等）を学びます。 ○ 相対分布図（階級区分図等）を学びます。 ○ カルトグラム・メッシュマップ等を学びます。 ○ 統計地図の作成を行います。 ■ 第1回定期考査	●	●
	5	第2節 身近な地域の調査 1. 調査テーマの設定 2. 課題の調査 3. 調査結果のまとめと発表 第II部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 第1節 世界の地形 1. 地形の成因 （1） 内的営力と外的営力 2. 地球規模の大地形 （1） 大地形の分布 （2） プレート運動と様々な境界 （3） 火山と地震の活動 （4） 造山帯と安定陸塊 3. 河川と海岸の小地形 （1） 小地形の形成と河川地形	 ○ 地域調査の手順等を学びます。 ○ 野外調査・予備調査・文献調査等を学びます。 ○ 聞き取り調査・観察調査・一次資料・補充調査等を学びます。 ○ ポスター・レポート・プレゼンテーション等を学びます。 ○ 地殻変動・内的営力・外的営力・風化・浸食等を学びます。 ○ 大地形・大陸・大洋・平野・山脈等を学びます。 ○ 大陸棚・深海平原・海嶺・海溝などを学びます。 ○ ウェゲナー・大陸移動説・プレートテクトニクス等を学びます。 ○ 狭まる境界・広がる境界・ずれる境界等を学びます。 ○ 海洋プレート・大陸プレート・褶曲山脈・島弧等を学びます。 ○ サンアンドレアス断層・北アナトリア断層等を学びます。 ○ マグマ・溶岩台地・カルデラ・火山灰・火砕流等を学びます。 ○ 地熱発電・ニュージーランド・アイスランド等を学びます。 ○ 地震・活断層・海溝型地震・津波・直下型地震等を学びます。 ○ 造山帯・造山運動・新期造山帯・古期造山帯等を学びます。 ○ アルプス＝ヒマラヤ造山帯・環太平洋造山帯等を学びます。 ○ 安定陸塊・卓状地・ケスタ・構造平野等を学びます。 ○ 楕状地・準平原・デーヴィス・侵食輪廻等を学びます。 ○ 沖積平野・小地形等を学びます。 ○ V字谷・谷底平野・扇状地・水無川・天井川等を学びます。 ○ 三角州・三日月湖・自然堤防・氾濫源・縄文海進等を学びます。 ○ 台地・丘陵・河岸段丘等を学びます。 ○ 自然を撮影した写真から、地形や土地利用を読み取ります。	●	●
	6				

		■ 第2回定期考査		
7	技能5 写真の見方—地形—	○ 砂浜海岸・干潟・砂嘴・砂州・陸繋島・潟湖等を学びます。 ○ 離水海岸・海岸平野・海岸段丘等を学びます。 ○ サンゴ礁・裾礁・堡礁・環礁・地球温暖化等を学びます。 ○ 沈水海岸・三角江・リアス海岸・フィヨルド等を学びます。 ○ 山岳氷河・大陸氷河・南極大陸・グリーンランド等を学びます。 ○ U字谷・カール・モレーン・氷河湖等を学びます。 ○ 氷期・間氷期・最終氷期等を学びます。 ○ 砂砂漠・岩石砂漠・礫砂漠・メサ・ビュート等を学びます。 ○ レス・偏西風・黄砂・ホワンツォ高原等を学びます。 ○ 外来河川・オアシス・内陸河川・ワジ等を学びます。 ○ カルスト地形・秋吉台・平尾台・鍾乳洞等を学びます。 ○ ドリーネ・ウバーレ・ポリエ・タワーカルスト等を学びます。 ○ 計曲線・主曲線・補助曲線・尾根・谷等を学びます。 ○ 地形断面図を作成します。 ○ 地形図で土地利用を判別します。		
	(2) 海岸に見られる小地形			
	4. そのほかの特徴的な地形			
	(1) 氷河地形			
	(2) 乾燥地形			
	(3) 石灰岩の溶食地形			
	技能6 地形図の利用—等高線			
7	技能7 地形図の利用—地形断面図	○ 気象・気候・気候因子・気候要素等を学びます。 ○ 日較差・年較差・海洋性気候・大陸性気候等を学びます。 ○ 気温の通減率・地形性降雨・湿潤・乾燥等を学びます。 ○ 熱帯収束帯・亜熱帯高圧帯・亜寒帯低圧帯等を学びます。 ○ 貿易風・偏西風・極偏東風・恒常風等を学びます。 ○ 季節風・ジェット気流・雨季・乾季等を学びます。 ○ 熱帯低気圧・台風・サイクロン・ハリケーン等を学びます。 ○ 陸水・氷河・地下水等を学びます。 ○ 被圧地下水・自由地下水・宙水等を学びます。 ○ 表層流・暖流・寒流・海洋の大循環・海岸砂浜等を学びます。 ○ 西岸気候・東岸気候等を学びます。 ○ ケッペン・植生・仮想大陸等を学びます。 ○ ケッペンの気候区分の気候記号・判定方法を学びます。 ○ 雨温図とハイサーグラフを作成して、読み方を学びます。 ○ 自然や人々の生活を撮影した写真から、気候を読み取ります。		
	技能8 地形図の利用—土地利用			
	第2節 世界の気候			
	1. 気候の成り立ち			
	(1) 気温と降水			
	(2) 大気大循環と風			
	(3) 陸水と海洋			
7	2. 世界の気候区分			
	(1) ケッペンの気候区分			
	技能9 気候区分の判定			
	技能10 雨温図・ハイサーグラフ			
	技能11 写真の見方—気候			



年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

重視する評

学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思
2	8	(2) 熱帯の自然と生活 ① 熱帯雨林気候 ② 熱帯モンスーン気候 ③ サバナ気候 (3) 乾燥帯の自然と生活 ① 砂漠気候 ② ステップ気候 (4) 温帯の自然と生活 ① 地中海性気候 ② 温暖冬季少雨気候 ③ 温暖湿潤気候 ④ 西岸海洋性気候 (5) 亜寒帯・寒帯の自然と生活 ① 亜寒帯湿潤気候 ② 亜寒帯冬季少雨気候 ③ ツンドラ気候 ④ 氷雪気候 (6) 高地に見られる気候 3. 気候と植生・土壌 4. 変化する気候	■ 第3回定期考査 ○ 年中高温多雨・スコール・ラトソル・焼畑農業等を学びます。 ○ 年中高温・弱い乾季・モンスーン等を学びます。 ○ 雨季・乾季・サバナ・レグール・テラローシャ等を学びます。 ○ リャノ・カンボ・グランチャコ等を学びます。 ○ 年降水量250mm未満・オアシス・塩性土壌等を学びます。 ○ 年降水量250～700mm・ステップ・サヘル等を学びます。 ○ チェルノーゼム・プレーリー土・栗色土等を学びます。 ○ 夏高温乾燥・テラロッサ・硬葉樹・柑橘類等について学びます。 ○ 夏に多雨・冬に少雨・二期作・常緑広葉樹等について学びます。 ○ 四季の変化明瞭・梅雨前線・褐色森林土・混合林等を学びます。 ○ 夏冷涼で冬温暖・北大西洋海流・偏西風・ブナ等を学びます。 ○ 冬に積雪・タイガ・ポドゾル・春小麦・酪農等を学びます。 ○ 冬に少雨・シベリア高気圧・永久凍土・林業等を学びます。 ○ 地衣類・イヌイット・サーミ・トナカイの遊牧等を学びます。 ○ 南極大陸・グリーンランド・大陸氷河等を学びます。 ○ 高山気候・アンデス山脈・高山都市・スラム等を学びます。 ○ アルパカ・リャマ・ボンチョ・ヤク等を学びます。 ○ 土壌・成帯土壌・間帯土壌等を学びます。 ○ 温暖化・寒冷化・小氷期・異常気象等を学びます。 ○ エルニーニョ現象・ラニーニャ現象等を学びます。 ○ 都市気候・ヒートアイランド現象等を学びます。		
	9	第3節 日本の自然と人々の生活 1. 日本の地形 2. 日本の気候	○ 弧状列島・火山帯・火山フロント・活断層等を学びます。 ○ フォッサマグナ・糸魚川静岡構造線・中央構造線等を学びます。		

10	3. 開発に伴う災害と防災 第4節 環境問題 1. 世界の環境問題 2. さまざまな環境問題 (1) オゾン層破壊 (2) 地球温暖化による影響 (3) 森林破壊 (4) 進行する砂漠化 (5) 大気汚染と酸性雨 3. 日本の環境問題 第2章 資源と産業 第1節 世界の農林水産業 1. 農業の発達と分布 2. 農業の地域区分 (1) 各地に見られる伝統的農業 ① 遊牧 ② 焼畑農業 ③ 粗放的定住農業 ④ 集約的稲作農業 ⑤ 集約的畑作農業 (2) 欧州で発達した商業的農業 ① 混合農業 ② 酪農 ③ 園芸農業 ④ 地中海式農業	○ ノーエン坑家・梅雨前線・台風・やませ・冷害等を学びます。 ○ 土石流・土砂災害・局地的大雨・集中豪雨等を学びます。 ○ 都市型災害・液状化現象・地下調節池等を学びます。 ■ 第4回定期考査 ○ 大気汚染・公害・リサイクル・国連環境計画等を学びます。 ○ オゾン層・オゾンホール・紫外線の増加等を学びます。 ○ ウィーン条約・モントリオール議定書等を学びます。 ○ 温室効果ガス・化石燃料・二酸化炭素等を学びます。 ○ 海面上昇・モルディブ・京都議定書等を学びます。 ○ 生物多様性・マングローブ林・えびの養殖池等を学びます。 ○ アグロフォレストリー・地球サミット等を学びます。 ○ サヘル・過伐採・過耕作・過放牧・NGO等を学びます。 ○ 光化学スモッグ・越境大気汚染・PM2.5等を学びます。 ○ 長距離越境大気汚染防止条約等を学びます。 ○ 水俣病・第二水俣病・イタイイタイ病等を学びます。 ○ 四大公害病・公害対策基本法・環境基本法等を学びます。 ○ 環境庁・環境省・省エネルギー・リサイクル等を学びます。 ○ 自然条件・社会条件・灌漑・栽培限界等を学びます。 ○ 自給的農業・商業的農業・企業的農業・産業革命等を学びます。 ○ 土地生産性・労働生産性・ホイットルセイ等を学びます。 ○ 北極海沿岸のトナカイ・チベット高原のヤク等を学びます。 ○ 中央アジアのラクダや羊・モンゴル高原の馬等を学びます。 ○ キャッサバ・タロイモ・ヤムイモ・バナナ等を学びます。 ○ 東南アジアと東アジアの沖積平野・棚田等を学びます。 ○ 中国北東部のこうりゃん・デカン高原の綿花等を学びます。 ○ 輪作・休閑・二圃式農業・三圃式農業等を学びます。 ○ 穀物・根菜類・飼料作物・家畜飼育等を学びます。 ○ 冷涼な気候・やせた土地・移牧・冷凍船の発明等を学びます。 ○ 近郊農業・輸送園芸・スマートアグリ等を学びます。 ○ 柑橘類・オリーブ・コルクがし・羊や山羊の飼育等を学びます。 ○ アメリカ合衆国南西部・チリ中部等を学びます。	●	●
	11		●	●
	12			

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

重視する評

学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思
3	1	世界の食糧問題 	○ 食料不足・飢餓・1日1人あたりカロリー摂取量等を学びます。 ○ 人口増加・紛争などによる難民・フェアトレード等を学びます。 ○ 食品ロス等を学びます。 ○ 食料自給率の低下・食育・地産地消・食の安全等を学びます。	●	●
	2	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 地震・津波と防災 1 地震・津波による災害	①我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解します。 さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けます。 ②地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現します。	●	●
	3	2 地震・津波の被災地の取り組み	③自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養います。		



2	単位

この特徴をとらえ、どの について下さい。 について下さい。 について下さい。 について下さい。
練習します。 練習します。 練習します。 練習します。
練習します。 練習します。 練習します。 練習します。まざまな考

--

を見ます。そのため とができるのかを見ま
--

のように活用するのが
どをとらえる」という

評価の観点		CHECK
技	知	○△×
●	●	
●	●	
●	●	
●	●	
●	●	
●	●	

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

道徳

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

道徳



●	●	
●	●	
価値の観点	CHECK	
技 知	○△×	
●	●	
●	●	

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

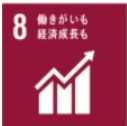


●	●	
●	●	
評価の観点		
技 知	CHECK	
●	○△×	
●		
●		
●		
●		
●		



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所にコピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン









道徳



1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地歴公民	科目	歴史総合	単位	2 単位
対象コース	一貫	コース	対象クラス	1 年	1 組
使用教科書	詳述歴史総合 (実教出版)				
使用副教材	詳述歴史総合 マイノート 新課程版 (実教出版)				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

国際関係から社会の編成、日常生活の具体的な姿や生産のあり方のなかから、世界と日本の歴史的なつながりを学ぶ。この過程は、「他者」の発見「他者」への共感、「他者」との共生の歴史を学ぶということでもある。このとき、「問い」を立てるという姿勢が大切である。「答え」を学ぶのではなく、歴史に向かって問いかける姿勢を身につけて欲しい。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

○近現代の歴史を「近代化」「大衆化」「グローバル化」という観点から着目し、世界と日本の動きを学ぶ。
 ・18～19世紀：近代化をメインに学ぶ
 ・20世紀前半：大衆化をメインに学ぶ
 ・20世紀後半～21世紀：グローバル化をメインに学ぶ

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業でパワーポイントを用いて説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、歴史の流れを把握することが大切です。板書事項や重要語句を正確にワークノートに記述することが求められます。

(2) 家庭

ワークノートは、教科書に準拠して作成してあります。予習として教科書の太文字を中心に目を通してきて下さい。家庭では地図や年表と照らし合わせることで、より深く近代史を学習することができます。また、テレビや新聞など各種の情報源がありますので、それらを活用することで知識の幅が広がり、深さも増すことでしょう。もし可能であればインターネット等を活用することもよいでしょう。各单元毎に宿題を課すので、必ず解答して提出しましょう。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 授業内容から作成された定期考査の成績で評価します。
- (2) ワークノートの取り組み状況を参考にして評価します。
- (3) 授業を受ける際の態度を参考にして評価します。
- (4) 課題の提出状況を参考にして評価します。
- (5) ワークノートの記述部分の内容等を評価ルックブックを用いて評価します。

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 知識・技能

・基本的な歴史用語の暗記と歴史の中の因果関係や流れを理解できているかを評価する。

(2) 思考・判断・表現

・討論や発表、ワークノートの記述部分等を評価ルックブックを用いて評価する。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

・授業中の態度・作業への取り組み、発問への回答や長期休暇の課題の提出状況等で評価する。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点			CHECK			
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×			
1	4	8フランス革命とナポレオン	・フランス革命とウィーン体制のもとで、政治体制はどのように変化していったのか考える。 ・ナポレオン戦争とウィーン体制について考える。	○		○	のよう			
		9ウィーン体制		○	○					
		1019世紀のイギリスとフランス		○	○					
		11イタリア・ドイツの統一		○	○	○				
		12東方問題と19世紀のロシア	・19世紀後半のイギリス・フランス・イタリア・ドイツでは、どのような政治上の動きがみられただろうか。 ・東方問題を通じて、ロシアやオスマン帝国にはどのような変化が生じたか考える。 ・オスマン帝国の衰退過程について考える。 ・ロシアの改革とその問題点について考える。	○	○					
		5		13アメリカの発展と分裂	・領土拡大の過程で、アメリカ合衆国ではどのような問題が生じたのか、独立後のアメリカ合衆国の発展とその過程で起きた南北戦争について考える。 ・ラテンアメリカの独立について考える。	○			○	
				14世界市場の形成		・パクス=ブリタニカの形成と世界の緊密化について考える。		○		○
								第3章 アジアの変容と日本の近代化		
	6	15イスラーム世界の改革と再編	7世紀にムハンマドが説いたイスラームは、アラビア半島の統一につながり、征服活動をともしないながら世界各地にひろがっていった様子や特徴について考える。	○	○					
		16南アジア・東南アジアの改革と再編		○		○				
		17アヘン戦争の衝撃		○		○				
	7	第4章 帝国主義の時代	・欧米諸国は、なぜ帝国主義の政策をすすめたのかについて考える。 ・アフリカと太平洋の分割について考える。	○	○	○				
		26帝国主義と世界分割		○						
		27帝国主義期の欧米社会		○						
		32アジア諸民族の独立運動・立憲革命		○	○					
年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点			CHECK			
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×			
	8	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	・第一次世界大戦は、なぜ世界を巻きこむ戦争になったのだろうか。第一次世界大戦の全容や影響について考える。	○	○	○				
		第5章 第一次世界大戦と大衆社会								
		33緊迫する国際関係								
		34第一次世界大戦								

9	35ロシア革命とシベリア出兵	・ソヴィエト政権はなぜ人々から支持されたのだろうか、また革命が成功した背景にあったものは何であるか、ロシア革命の原因や経過について考える。 ・ロシア革命が世界に与えた影響を考える。	○	○	
	37ヴェルサイユ体制とワシントン体制	・大戦後の国際秩序はどのような目的で構築されたのだろうか、第一次世界大戦後の国際秩序	○	○	
10	38西アジア・南アジアの民族運動	・第一次世界大戦後、アジア各地で民族運動が	○		○
	39東アジア・東南アジアの民族運動	活発になったのはなぜか。トルコやインドでは	○		○
	40戦間期の欧米	・戦間期のヨーロッパの動き、とくにドイツの	○		○
	第6章 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌は各国の経済や人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。			
11	43世界恐慌	・世界恐慌と日本への影響について考える。 ・世界恐慌がイギリス・アメリカ・ソ連に与え	○	○	
	44ファシズムの時代	・ヒトラーのひきいるナチ党は何を主張し、どのようにして政権をにぎったのだろうか。	○		○
	47第二次世界大戦とアジア太平洋戦争	・第二次世界大戦のはじまりについて考える。 ・アジア太平洋戦争について考える。	○		○
道徳					
	50国際連合と戦後世界	・国際連合は設立の目的を十分にはたせてきた	○	○	
	16 平和と公正をすべての人に				
	51戦後と占領の始まり	・国際連合の成立と組織の内容について考える。	○		○
	53冷戦の開始	・冷戦について考える。	○		○
	第3編 グローバル化と私たち				
12	第7章 冷戦と脱植民地化				
	55冷戦対立の推移	・旧植民地は、どのように独立をはたしたのか考える。	○		○
	56植民地の独立と第三世界の出現	・植民地の独立について考える。 ・第三勢力の台頭について考える。	○	○	
1	57米ソ両陣営の動揺	・強大な軍事力をほこった米ソが、影響力を弱めていったのはなぜか、考える。	○		○
	第8章 多極化する世界				
	59石油危機と世界経済	・石油危機と変動相場制実施、アジアの経済成	○		○
	60緊張緩和から冷戦の終結へ	・緊張の緩和と再燃について考える。	○		○
2	61地域協力の進展	・ヨーロッパやアジアの経済協力について考える。	○	○	

		第9章 グローバル化と現代社会 3 63冷戦体制の終結 64地域紛争と世界経済 65グローバルな認識へ 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナシップで目標を達成しよう	・ 冷戦後の世界，民族の対立を考える。 ・ グローバル化がすすむなかで，各国はどのよ ・ 地域統合の深化やグローバル化への対応について考える。	○	○		
年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点			CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点			CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点			CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×

[illegible]

【SDGsの各ターゲットについて】

ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】

高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は
アイコンをクリック



※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



※評価の観点

- 知 → 知識・技能
- 思 → 思考・判断・表現
- 主 → 主体的に学習に
取り組む態度

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地歴公民	科目	歴史総合	単位	2 単位
対象コース	進学・総合・美術	コース	対象クラス	1 年	2～9 組
使用教科書	詳述歴史総合（実教出版）				
使用副教材	詳述歴史総合 マイノート 新課程版（実教出版）				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

国際関係から社会の編成、日常生活の具体的な姿や生産のあり方のなかから、世界と日本の歴史的なつながりを学ぶ。この過程は、「他者」の発見「他者」への共感、「他者」との共生の歴史を学ぶということでもある。このとき、「問い」を立てるという姿勢が大切である。「答え」を学ぶのではなく、歴史に向かって問いかける姿勢を身につけて欲しい。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

○近現代の歴史を「近代化」「大衆化」「グローバル化」という観点から着目し、世界と日本の動きを学ぶ。
 ・18～19世紀：近代化をメインに学ぶ
 ・20世紀前半：大衆化をメインに学ぶ
 ・20世紀後半～21世紀：グローバル化をメインに学ぶ

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業でパワーポイントを用いて説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、歴史の流れを把握することが大切です。板書事項や重要語句を正確にワークノートに記述することが求められます。

(2) 家庭

ワークノートは、教科書に準拠して作成してあります。予習として教科書の太文字を中心に目を通してきて下さい。家庭では地図や年表と照らし合わせることで、より深く近代史を学習することができます。また、テレビや新聞など各種の情報源がありますので、それらを活用することで知識の幅が広がり、深さも増すことでしょう。もし可能であればインターネット等を活用することもよいでしょう。各単元毎に宿題を課すので、必ず解答して提出しましょう。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 授業内容から作成された定期考査の成績で評価します。
- (2) ワークノートの取り組み状況を参考にして評価します。
- (3) 授業を受ける際の態度を参考にして評価します。
- (4) 課題の提出状況を参考にして評価します。
- (5) ワークノートの記述部分の内容等を評価ルックブックを用いて評価します。

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 知識・技能

・基本的な歴史用語の暗記と歴史の中の因果関係や流れを理解できているかを評価する。

(2) 思考・判断・表現

・討論や発表、ワークノートの記述部分等を評価ルックブックを用いて評価する。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

・授業中の態度・作業への取り組み、発問への回答や長期休暇の課題の提出状況等で評価する。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点			CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×
1	4	世界史のなかの宗教	・世界三大宗教について学ぶ	○			
		第1編 近代化と私たち					
		第1章 近代化への胎動	・アジア諸帝国と海域世界の繁栄について考える。	○	○		
		イントロダクション	・ヨーロッパの海外進出について考える。		○		
		17世紀以前のアジアの繁栄、ヨーロッパの海外進出	・中世ヨーロッパの秩序が崩れていくなかで、イタリア戦争、ローマ教皇からはなれる動きを示した宗教改革、三十年戦争などをへて、主権国家体制が確立されたとされる。17世紀以前のヨーロッパの「国家」について考	○		○	
		1ヨーロッパの海外進出と市民社会	・主権国家の成立過程について考える。				
		第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成					
5	6	イギリス産業革命	・イギリス産業革命やアメリカ独立戦争は、どのように始まり、展開したのか考える。	○	○	○	
	7	アメリカ独立革命		○	○		
		8フランス革命とナポレオン	・フランス革命とウィーン体制のもとで、政治体制はどのように変化していったのか考える。	○		○	
		9ウィーン体制	・ナポレオン戦争とウィーン体制について考える。	○	○		
		1019世紀のイギリスとフランス		○	○		
		11イタリア・ドイツの統一	・19世紀後半のイギリス・フランス・イタリア・ドイツでは、どのような政治上の動きがみられただろうか。	○	○	○	
		12東方問題と19世紀のロシア	・東方問題を通じて、ロシアやオスマン帝国にはどのような変化が生じたか考える。 ・オスマン帝国の衰退過程について考える。 ・ロシアの改革とその問題点について考える。	○	○		
6	13	アメリカの発展と分裂	・領土拡大の過程で、アメリカ合衆国ではどのような問題が生じたのか、独立後のアメリカ合衆国の発展とその過程で起きた南北戦争について考える。 ・ラテンアメリカの独立について考える。	○		○	
		道徳					
		14世界市場の形成	・パクス=ブリタニカの形成と世界の緊密化について考える。	○		○	
		第3章 アジアの変容と日本の近代化					
7	15	イスラーム世界の改革と再編	7世紀にムハンマドが説いたイスラームは、アラビア半島の統一につながり、征服活動をともしながら世界各地にひろがっていった様子や特徴について考える。	○	○		
		16南アジア・東南アジアの改革と再編		○		○	
		17アヘン戦争の衝撃	・アヘン戦争で東アジア諸国はどのような対応をせまられたのか考える。 ・アヘン戦争とインド大反乱について考える。 ・日本の開国とその影響について考える。	○		○	
		第4章 帝国主義の時代					

	8	26帝国主義と世界分割 27帝国主義期の欧米社会 32アジア諸民族の独立運動 ・立憲革命	・欧米諸国は、なぜ帝国主義の政策をすすめたのかについて考える。 ・アフリカと太平洋の分割について考える。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点			CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×
	9	第2編 国際秩序の変化や 大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と 大衆社会 33緊迫する国際関係 34第一次世界大戦	・第一次世界大戦は、なぜ世界を巻きこむ戦争になったのだろうか。第一次世界大戦の全容や影響について考える。		○ ○	○ ○	
	10	35ロシア革命とシベリア 出兵 37ヴェルサイユ体制と ワシントン体制	・ソヴィエト政権はなぜ人々から支持されたのだろうか、また革命が成功した背景にあったものは何であるか、ロシア革命の原因や経過について考える。 ・ロシア革命が世界に与えた影響を考える。 ・大戦後の国際秩序はどのような目的で構築されたのだろうか、第一次世界大戦後の国際秩序		○ ○	○ ○	
	11	38西アジア・南アジアの 民族運動 39東アジア・東南アジアの 民族運動 40戦間期の欧米	・第一次世界大戦後、アジア各地で民族運動が活発になったのはなぜか。トルコやインドでは ・戦間期のヨーロッパの動き、とくにドイツの	○ ○		○ ○	
	12	第6章 経済危機と第二次 世界大戦 43世界恐慌 44ファシズムの時代 47第二次世界大戦とアジア 太平洋戦争	・世界恐慌は各国の経済や人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。 ・世界恐慌と日本への影響について考える。 ・世界恐慌がイギリス・アメリカ・ソ連に与え ・ヒトラーのひきいるナチ党は何を主張し、どのようにして政権をにぎったのだろうか。 ・第二次世界大戦のはじまりについて考える。 ・アジア太平洋戦争について考える。	○ ○	○ ○	○ ○	
							
		50国際連合と戦後世界 	・国際連合は設立の目的を下方にはたしてできた だろうか ・国際連合の成立と組織の内容について考える。 ・冷戦について考える。		○ ○	○ ○	
		51戦後と占領の始まり 53冷戦の開始 第3編 グローバル化と 私たち		○ ○		○ ○	

1	第7章 冷戦と脱植民地化	・旧植民地は、どのように独立をはたしたのか考える。 ・植民地の独立について考える。 ・第三勢力の台頭について考える。	○		○			
	55冷戦対立の推移		○	○				
	56植民地の独立と第三世界の出現							
	2 57米ソ両陣営の動揺		○		○			
	第8章 多極化する世界		○		○			
3	59石油危機と世界経済	・石油危機と変動相場制実施，アジアの経済成	○		○			
	60緊張緩和から冷戦の終結へ	・緊張の緩和と再燃について考える。	○		○			
	61地域協力の進展	・ヨーロッパやアジアの経済協力について考える。	○	○				
	第9章 グローバル化と現代社会							
	63冷戦体制の終結	・冷戦後の世界，民族の対立を考える。	○	○				
	64地域紛争と世界経済	・グローバル化がすすむなかで，各国はどのよ	○		○			
	65グローバルな認識へ	・地域統合の深化やグローバル化への対応について考える。	○		○			
								
								
	年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか			重視する評価の観点				
学期	月	学習の項目	学習の内容		知	思	主	CHECK
								○△×

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

重視する評価の観点

CHECK

学期

月

学習の項目

学習の内容

知

思

主

○△×

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点			CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×

[illegible]

【SDGsの各ターゲットについて】

ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】

高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は
アイコンをクリック



※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



※評価の観点

- 知 → 知識・技能
- 思 → 思考・判断・表現
- 主 → 主体的に学習に
取り組む態度

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

